

平成 28 年度 特別養護老人ホーム喜久の園 事業報告書

第1 概況

1 基本理念、目標の実践

報酬改定、入居基準の変更等が影響し、介護保険事業所においては厳しい経営が続くなかで、経費削減等も意識しながら施設運営に努めた。中でも空床期間の短縮は、入居申込者への頻繁な連絡調整、迅速な対応による利用率の維持確保に大きく反映し、収入の増加に直結した。在宅サービス（短期入所）については、事業所の増加等に伴い利用率の低迷が近隣事業所で課題となる中、職員の役割分担を明確にすることで、昨年度を超える利用率を確保できた。

施設間競争の激化、ニーズの多様化等が進み、職員のケア技術の向上及び介護・看護の連携強化が求められる中、勤務の制約等から十分と言えないが、職員個々のスキルアップに繋がる研修等への参加を心がけた。初の取り組みとなった市内 4 施設（特養）共同学習会を始め、今後も一人でも多くの職員が各種研修等に参加することにより職員全体で質の高い施設を築き、地域の信頼を得ていきたい。

2 施設利用に向けての情報共有等の取り組み

毎月定例と臨時に計 14 回の入居判定会を開催、計画的に事前面接を予定に組み込むことで入居判定までに要する日数短縮を図ることができた。この結果、15 人を判定、13 人が入居し、退去から次の入居までの平均所要日数は前年度の 11.2 日から 9.5 日に短縮した。

入院外泊を除く利用率が 99.3%と前年度の 98.5%を上回った。入院および外泊による空床日数（前年度 310 日・今年度 251 日）は減少しているものの、これらを含めた利用率は 97.9%であり、入院期間長期化の要因である骨折などの事故の防止と、重篤化で入院することを防ぐための早期発見・早期対応は引き続き課題として挙げられる。

また、市内 4 施設共同学習会に参加し、申込者の状況など情報交換の機会として有効に活用した。

3 ケア向上への取り組み

綿密な個別ケアプランによる利用者に対するケアが適正であるか、関係職員が会議の場においてサービス内容の共有及びケアの統一を確認し合い、その繰り返しによって更に質の高いケアを目指すよう取り組んだ。また様々な教養文化活動、余暇活動、コミュニティ活動を通じ、利用者が生きる喜びを実感できる生活の場を提供していくことに努めた。

4 感染症、防災対策への取り組み

感染症対策については委員会を中心に、流行期に入る前から早目の予防対策を実施したが冬場に利用者及び職員の一部でインフルエンザ（A 型）を発症、その後の対応により

広がりを見せ、最小限に食い止め終息に至った。

防災対策においては、毎月実施している防災訓練に当日出勤の職員及び利用者に参加を呼びかけ、訓練を通して災害時の対応を考えてもらう機会としている。また、相模原市内の施設で起きた殺傷事件を受け、防犯対策が叫ばれた年であった。防災対策は費用をどこまで掛けるかにより大きく違いが出るが、「防犯対策が整った開かれた施設」を目標として、可能な所から対策を進める必要がある。

5 ご家族、ボランティア、関係業者及び地域住民との連携強化

地域の特別養護老人ホームとして、地元住民、行政の協力はもとより多くのボランティアの支援のもとに運営されている。

地域交流センター「うらら」の活用については、地域性、公共性に配慮しながら出来る限り利用者の希望に沿った受け入れを心がけており、今後も地域社会での役割を果たせるよう、関係者との連携、協力関係を深めていく。

第2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

前年度の介護報酬改定以降、減収が見込まれる中、健全で安定したサービスを維持していくために利用率安定向上を意識し、空床日数の短縮に努めてきた。

利用率は、特養 97.9%（前年度 97.3%）、短期入所 86.8%（前年度 84.7%）と、どちらも前年度を上回った。特養は基本目標の 99.3%に届かず、短期入所は 86.0%の基本目標を僅かながらクリアした。

主な理由としては、入所基準の変更（要介護 3 以上）による入居候補者の減少、他事業所との競争の激化等によるところが大きい。

空床日数の短縮に努めたことで、入居までの平均所要日数は 9.5 日で、昨年度の 11.2 日から短縮した。

短期入所についても他の事業所との競争が激しくなる中であって、定期的に利用される方からの声を大切に、利用者満足度向上に引き続き取り組むとともに、新規利用者の獲得、空き待ち希望者を柔軟に受け入れた。

（単位：％）

区 分	平成 28 年度	平成 27 年度	増 減
施設入居者 50 人	97.9	97.3	0.6
短期利用者 10 人	86.8	84.7	2.1

2 経営状況

平成 28 年度の介護保険収入は、昨年度対比で約 80 万円の増加となった。支出については限られた予算の中で抑制を図ったことにより、前年度対比で人件費、事務費、事業費において支出減となった。但し、借入金の償還があるため、他の拠点区分からの繰入金なしでは運営が成り立たない経営状況となっている。

平成 28 年度の修繕においては、空調設備の修理、厨房床面の塗装工事等を実施したが、

幸いにも大掛かりな修繕が頻発しなかった。しかしながら、開設から10年が経過し、施設内の設備、備品に関しては不具合が徐々に発生しているため、修理か買替えかの見極めと共に、優先順位に配慮しながら、効率的に対処する必要がある。

収入

(単位：千円)

区 分	平成 28 年度	平成 27 年度	増 減
介護保険	268,717	267,822	895
その他収入	3,133	3,259	△126
計	271,850	271,081	769

支出

区 分	平成 28 年度	平成 27 年度	増 減
人件費	199,406	204,003	△4,597
事務費 事業費等	66,031	70,185	△4,154
計	265,437	274,188	△8,751

3 職員状況（部門別職員数）

平成28年度末の全体職員数は54人で、正規職員は30人。内訳は介護職員21人、看護職員2人、事務室職員（調理含む）7人である。また、非正規職員は嘱託職員、医師を含め24人である。

なお29年4月1日現在の職員数は52人である。

(平成29年3月31日現在)

(単位：人)

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	合計
	施設長 副施設長 事務部長 介護部主幹	CM（主任） 管理室員	送迎担当 清掃員	主任 副主任 一般	看護職員 嘱託医師 機能訓練指導員	管理栄養士	
正 規	5	1	—	21	2	1	30
非正規	—	1	3	14	6	—	24
計	5	2	3	35	8	1	54
28年同期	5	2 (1)	3 (3)	35 (13)	6 (4)	1	52 (21)

注) 1 27年同期の()は、うち非正規職員である。

2 他に産休、育休中が1人いる。

4 施設整備等の状況

施設整備のための工事は特になかったが、空調設備の修理及び厨房内床面の塗装工事で約100万円を要した。

5 特記事項

(1) 事故防止と苦情解決への取り組み（資料編 11、18）

事故防止は、ケアの質向上の大きなポイントであり、事故防止委員会では原因分析や再発防止に取り組んだ所であるが、平成 28 年度は 155 件と、前年度（160 件）から微減となった。

また、苦情件数は前年度の 10 件から 4 件と、6 件減少した。なお、各部署職員からの報告を受け対応したケースには職員個々が「耳を傾け寄り添う」、「要望に沿えるよう努めていく」姿勢によって築かれた信頼関係が解決の糸口になったと思われる事例もあり、日頃からの真摯な姿勢が重要である事を認識した。

(2) 余暇、レクリエーション活動の状況

明るい笑顔に満ちた環境となるために、年 100 回程度（1 回平均 10 人参加）の歌声広場や各ユニットでの行事を中心に余暇活動に力を入れた。

区分		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
歌声広場 (嚙下体操)	回数	29	28	23	11	91
	利用者数(人)	338	287	222	98	945
	1回平均(人)	11.7	10.3	9.7	8.9	10.4
各ユニット 行事等	回数	42	35	35	21	133
	利用者数(人)	710	599	623	358	2,290
	1回平均(人)	16.9	17.1	17.8	17.0	17.2

(3) 家族、利用者との交流行事の開催

① 納涼祭 7/23 (土) 14:00～16:00 開催

施設入居者 46 人・短期入所者 8 人・36 家族（80 人）・招待 53 人・来賓 15 人・ボランティア 18 人 合計 220 人

内容：菊川市マスコットキャラクター「きくのん」来園/ 出店 / ミニゲーム

② 敬老祝賀会 9/17 (土) 10:00～12:00 開催

施設入居者 43 人・短期入所者 7 人・30 家族（44 人）・来賓 13 人 合計 107 人

内容：式典（祝辞・記念品贈呈）/余興（鮪の解体ショー）

(4) 職員研修への取り組み

毎月開催の管理運営会議をはじめ、各種委員会・会議において効果的な運営に努め、情報の共有化を図ってきた。なお、会議、委員会は原則 1 時間以内、ワンペーパーを目標に進めており、継続して取り組んでいる。

職員一人ひとりのケア技術と意識レベルの向上のため、介護職員のスキルチェック（年 1 回）、口腔ケア研修は初めての実施で好評を得た。また、中東遠地区特養職種別研究会、市内 4 施設特養共同学習会等に参加した以外、教育研修への十分な参加には至らなかった。

	研 修 名	開 催 日	参加者数
施設内 研修	口腔ケア研修	2/16	12 人
施設外 研修	接遇マナー研修会	7/1	1 人
	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者コース	8/8、17、18	1 人
	市内 4 施設共同学習会	4/22、6/16、8/10、 10/12、1/11	10 人
	より良い高齢者ケアを考えるセミナー	11/9	1 人
	メンタルケア研修会	11/4	1 人
	フォローアップセミナー	12/8	1 人

(5) 地域交流センター「うらら」の利用

地域住民や利用者、家族との交流の場、更には各種研修の場として積極的な利用に努めた。また、平成 25 年 3 月の地元仲島自治会との「防災に関する覚書」に基づき、防災用品を保管、管理を行っている。

第3 部門別の状況

1 事務・管理部門（資料編 8・16）

施設内においては他職種・他部署間の意思疎通、コミュニケーションを積極的に図り連携強化に努めるとともに、利用者への明るい挨拶と声掛け、面会をはじめとする来園者への丁寧な対応を心掛けた。

職員面談を年 2 回（7 月・1 月）実施し、個々の職員が考える業務への取り組みと展望ライフプランの把握に努めた。

- ① 面会者の来園時、お帰りの際の＜挨拶＞の徹底を図り、利用者、ご家族などすべての方との最初の『窓口』であることを常に意識した明るい笑顔のあいさつ、対応に心掛けた。なお、年間面会者は 3,768 人、1 日平均 10.3 人と前年度より 1 日平均 2.2 人の減少であった。

ケース記録をシステム上共有化しつつ、個々の利用者の日々の容態把握に努め、面会にみえた家族に対し窓口対応の時点で職員側から家人へ容態報告ができる体制作りを推進した。

- ② 事務室職員は各自の役割、使命を果たすとともに介護部主幹、介護支援専門員、管理栄養士を中心に利用者本位の業務と現場職員の業務円滑化に尽力した。
- ③ 各種諸制度の周知と利用者及び家族への個別説明、代行手続きを通して、親切丁寧な対応を心掛けた。

2 介護部門（資料編 5.6.7.18）

利用者の尊厳を守り、一人ひとりが充実した生活を営む事ができるよう支援に努めた。

利用者満足度の向上にむけて、余暇活動への企画・参加を促した。介護現場が活性化するように、ハウ・レン・ソウを徹底し、フロアや職種を越えて協力体制を確保するよ

うに努めた。

利用者、職員共に明るい笑顔に満ちた環境作りができるように、積極的にコミュニケーションを図った。職員一人ひとりのケア技術と意識レベルの向上のため、介護部スキルチェックを実施したが、指導実施まで至らなかった。施設内外の教育研修への積極的な参加は出来なかったが、介護部のリーダーを中心とし自己研鑽に努めた。

① 満足度の高いケア（個別支援）の充実に向けて

ア 個別性を考慮し、利用者一人ひとりの生活を尊重し、日々の充実や安らぎを感じられるよう居室担当を中心とし、他職種と連携し個別支援を進めた。余暇活動が活性化されるよう施設全体で横断的な協力体制を築き、企画・参加を促した。身体機能の向上にむけて、医務との協議や助言を受けながら、それぞれの利用者にとっての最善を尽くすよう心掛けた。水分摂取量は利用者ごとの一日の水分摂取量を把握し、それぞれの体調に配慮しながら増加への支援に努めた。今年度の平均水分摂取量は 1,130ml と若干減少した。（平成 27 年度は 1,158ml）

イ 各利用者の意向が尊重されるよう、ケアマネジャーを中心とした多職種間連携により、それぞれの自立支援にむけた「ケアプラン」を策定、実現にむけ支援を進めた。利用者や家族の参加の下、居室担当としてサービス担当者会議に 12 回参加した（入居後約 3 か月後に必ず）。

ウ 介護職員は、基本的な医療処置ができるよう自己研鑽に努めた。看護職員のスキルチェック指導を受け、観察眼を養い、医療知識・スキルの向上を目指した。

エ 介護職員が、幅広くケアについて積極的に関わりができるよう、ユニット単位だけでなく、フロアとして横断的な介護体制を確保するよう心掛けた。フロア単位のケアの在り方や協力体制にむけてミーティングや会議を活性化させるために、事前に問題提起・精査検討し、決められた会議時間を有効活用した。毎月のユニット（もしくはフロア）会議は業務時間内に開催することによって他職種の参加を促し、職員の業務負担に努めた。処遇別委員会においては「食事」「排泄」「入浴」「介護力向上」を介護職員が主体となって適宜開催し、処遇内容の検討・統一に向けて取り組んだ。

オ 各ユニットにおいて、利用者目線の具体的なケア目標を掲げ、実践に向けてユニット会議内で取り上げ、実現できるよう進めた。

カ 先進ユニット施設や近隣施設の見学を行い、良い点は積極的に取り入れようと計画していたが、勤務体制の都合により実現出来なかった。

キ 「一人一研修」を目標としていたが、人員や日程の都合により一部の職員のみでの参加となった。研修に参加した職員が、会議や委員会の中で、研修内容を報告することによって施設に還元し、全体でのレベルアップを図った。

3 相談部門（資料編 11）

日頃の相談対応とともに 8 月の介護保険負担限度額認定制度の改正、10 月の看護体制加算算定といった利用料金の増額に関する事案が続く中、内容の周知と丁寧な説明を心掛けた。

各種被保険者証書類の管理業務において、適正な管理とあわせ、更新手続き等の代行業務についても積極的に応対し、家人の各種手続きの負担軽減に努めた。

① 利用者、家族からの要望に対し傾聴を心掛け、真摯に受け止め、即応に努めた。

- ② 万一の事故発生時には、適切な対応と共に、家族・関係機関等への正確かつ迅速な報告、説明を心掛け、本人・家族の「安全・安心・安楽」と合わせて「信頼」も得られるような対応を心掛けた。
- ③ 入居受付業務について、平成 29 年 3 月 31 日時点での入居申込者数は 82 人（要介護 3 以上 55 人・特例 27 人）であり、前年度の 113 人から更に減少している。
- 申込者数、早期入居希望者減少への対策として、第三者委員と入居順位を協議する優先入居検討委員会の開催を例年の年 2 回から年 3 回（5/23・10/24・2/13）に増やし、介護者の傷病や入院、退院・退去を迫られているケースなどの緊急性、切迫性が高い入居希望に対し、タイムリーに対応できる体制構築を図った。
- 毎月の入居判定会（4/14・5/12・6/9・7/14・8/15・9/15・10/17・11/17・12/19・1/13・2/16・3/16）の開催とともに、計画的にかつ随時に申込者家族への近況、入居意思確認の連絡を行い、要医療ケアによる突発的な退去などの事案には臨時に判定会（1/31・3/3）を開催するなど、事前面接から入居判定までに要する日数短縮に心掛けた。
- 退去から次の入居までの平均所要日数については、前述の取り組みとともに退去者数の減少（前年度 25 人・今年度 14 人）の影響もあり、退去から次の入居までの平均所要日数は前年度の 11.2 日から 9.5 日に短縮した。
- 要介護 1 及び 2 の方の入居（特例入居）要件に該当するケース、検討事案はなかったが、制度改正の平成 27 年 4 月 1 日以降の入居者のうち要介護 3 から 2 に変更、入居要件を満たさなくなった事案が 1 件あり、家族との協議および保険者である菊川市への意見照会を行い、入居継続の対応を行った。
- ④ 迅速な入退居手続きとともに、協力医療機関である菊川市立総合病院と嘱託医師や医療職との協力を前提に、定期的な面会、病状説明時の立会いを通して入院加療後の入居者の円滑な退院調整に努めた。
- ⑤ 社会福祉士実習養成校として、昨年度に続き福祉系大学、短大、専門学校の実習受け入れの準備を行ってきたが、今年度の受け入れ実績はなかった。

4 看護（医務）部門（資料編 12・13）

- ① 「喜久の園医療行為に関するガイドライン」を遵守し、配置医師の指示の下、日常の情報交換、指示・非指示の連絡を緊密に行い、緊急時等迅速な対応ができるよう努めた。
- ② 看取り介護を利用者本人・家族の同意を得て、配置医師・看護師・介護職員等の連携体制の下にケアカンファレンスを開催・実施し、計画から振り返りまで他職種と連携を取り統一したケアを実施することができた。
- ③ 感染症委員会を中心に感染予防に努めたが、インフルエンザ集団感染発症してしまった（利用者:3 人 職員:7 人）。
- （学習会） 9 月「ブラックライトで手洗いチェック」
10 月「インフルエンザ・ノロウイルスについて」
- ④ ショートステイ担当看護師を中心に、担当職員・居宅支援専門員・訪問看護師・家族から事前に情報収集を行い、連絡を密にしながらかケアにあたることができた。
- ⑤ 投薬ミス（誤薬・服薬漏れ）等の医療事故を防止するため、服薬チェック体制の見直しを行なった。投薬ミスが発生しない体制整備を図ると共に、定期薬剤一覧表の入力と見直しを徹底し、介護職員に対し薬の効能・副作用などの知識指導を行った。

- ⑥ 「医療知識・技術スキルチェック」を10月に実施
チェック表をもとに定期チェック・効果測定を行ないスキル向上のために指導を行なった。
- ⑦ 年2回健康診断実施（4月・11月）
利用者の状況を把握し体調管理に努めることができた。
職員は診断結果により再診・再検査を指示し健康維持を図ることができた。
- ⑧ 「菊川市立総合病院及び市内福祉社会施設等連絡協議会」年2回、「市内4特養共同学習交流会」年1回、他施設や地域の医療機関と意見交換を行ない、連携を深めることができた。

5 食事部門

- ① 食事形態の見直しを各部署と連携して行うことが出来た。“最期まで口から食べる”を目指し安全かつおいしい食事の提供を心掛けた。
- ② 水分摂取量がアップできるように水分提供方法について検討したが、年間平均は1,130.3mlと若干減少した。
- ③ 食事委員会を月1回開催し、食事内容や食事提供方法の改善を図ることが出来た。
- ④ イベント食やユニット調理を実施し、食事提供の充実を図ることで食事満足度を高めた。（イベント食：マグロの解体ショー(敬老祝賀会にて)・スイーツバイキング、流しそうめん・あゆの炭火焼、さんまの塩焼き、焼いもユニット調理：オムライス・天ぷら・釜炊きご飯）
- ⑤ 季節感を感じる行事食や旬の食材を使用した献立を提供することが出来た。
- ⑥ 感染症、食中毒防止の為に、ユニット内冷蔵庫の食品管理、キッチン周りの清掃が実施出来ているかどうか定期的に確認した。
- ⑦ 委託業者への衛生管理を徹底し、感染症の防止に努めた。
- ⑧ 月1回の委託業者による打合せを通じて、給食材料費の収支報告の精査と委託業務の質的向上に努めた。
- ⑨ 平成29年3月に厨房の床の塗装工事を施工した。介護部、委託業者と連携し工事期間中の食事提供について普段の食事と遜色ないよう心掛けた。
- ⑩ 管理栄養士養成校の学生の実習を受け入れをした。

6 各委員会

各種委員会の活性化—事故のない安全で安心、快適な生活の実現を目指し取り組んだ。

- ① 企画・広報委員会
 - ア ユニット行事、歌声広場、ボランティア活動、行事食等を月間行事予定表として、玄関、ユニットに掲示、周知を進めた。各ユニットが余暇行事を積極的に企画・実施出来るようフロア・他職種間で協力体制をひいた。
 - イ 行事や企画は利用者満足度アップ、自立支援、充実感につながることから全職員が対応し、日常的に開催できるよう取組んだ。
 - ウ 広報紙の発行回数を年2回に見直し、現場に無理のない編成体制とした。
 - エ 広報紙へは写真を多く掲載し、家族に施設での生活を分かりやすく伝え、同じ利用者ばかりが掲載されないよう注意した。

② 防災委員会

ア 被害想定を踏まえた消火・避難・通報体制の確保等、防火・防災対策の徹底を図った。

イ 毎月定期的にフロア・ユニットごとに避難誘導訓練を実施した（5/25・6/22・7/27・8/24・9/28・10/26・11/2・12/21・1/25・2/22・3/22）。

ウ 年2回以上の夜間訓練を計画したが、夜間想定の実施にとどまった。

消防署立会い訓練とあわせ夜間訓練実施は引き続きの課題である。

エ 災害時優先電話の活用、職員緊急連絡網、連絡体制の整備と共に、コミュニケーションによる情報伝達訓練を実施した（11/9）。

③ 苦情解決委員会

前年度10件の苦情に対し、今年度は4件の申出を受け付け、解決に努めた。

苦情解決委員会を開催（持ち回り開催：5/11・7/6・9/7・3/1）。

苦情解決第三者委員定期ヒアリングを開催した（7/28・3/23）。

ア 「利用者、家族からの声」として真摯に受け止め、常に利用者の立場に立った早期対応、関係者への迅速な周知と情報の共有化を図った。

イ 申し出に対する早期対応に努めた結果、苦情要望の再申し出はなかった。

なお、利用者家族、本人からの申し出に対し、受付担当者の対応を待たずとも各部署スタッフの真摯に耳を傾け寄り添うことで解決につながる事例もあり、日頃から相互に信頼関係を築くことの大切さを認識した。

④ 個人情報保護委員会

ア 個人番号（マイナンバー）制度をはじめ、利用者、家族、職員の個人情報の管理徹底に努めた。

イ 職員緊急連絡網作成（4月・11月）による職員の電話番号に関する管理を徹底した（4月・11月）。

⑤ 事故防止委員会

ア 年間事故件数を、前年対比20%以上減を目指し120件（月10件）以下を目標と掲げたが、平成28年度は155件、ヒヤリハットは77件であった。（平成27年度は事故件数160件、ヒヤリハットは72件）毎月の会議内で、事故要因の分析、解決方法を具体化し事故防止に努めた。

イ 事故報告書、ヒヤリハットの記入方法の工夫・簡素化を目指し、誰にでも内容が理解できるように分かりやすくするよう指導した。

ウ 医務室と連携し、服薬ミスをなくすための報告・連絡・確認に努めたが、薬に関する事故は29件と（平成27年度は29件）変わらず。より一層の注意や指導が必要である。

エ 職員一人ひとりの意識を高め、事故防止を考えた利用者の生活環境づくり（個々にあったベッドや車椅子の選定、センサーマットの試用、リビングのしつらえ等）を進めた。

⑥ 身体拘束廃止委員会

ア 「身体拘束0宣言」を継続し、身体拘束に関する学習会を年2回開催した。（10月身体拘束とは？3月身体拘束をなくすための「車椅子や椅子」）「スピーチロック」について各自の接遇や言動を見直し、知識・意識のレベル向上を図り、身体拘束廃止を目指すよう努めた。

イ 毎月1回開催し、拘束の可否について現状を確認・分析し、施設全体で身体拘束廃止に向けた取り組みを進めた。必要に応じて、現場で他職種と協議し、身体拘束廃止に向

けての理解を求めた。

ウ センサーマットを行動把握として活用し、必要性の可否を都度検討し施設全体で身体拘束廃止に向けて取り組んだ。

⑦ 看取り介護委員会

ア 月1回開催し、計画から振り返りまで他職種と共に統一したケアを行う事ができた。

イ 看取り介護についての学習会・施設内研修を10月に実施した（看取り介護マニュアルの読み合わせ）。

ウ 退去される際、利用者も含み多くの人でお見送りできた。看取り期に近い状態から看取り介護中は家族とのコミュニケーションを更に深め精神的なフォローに努め、また退去後も心的フォローを行えた。

エ 介護部、看護部の告別式への参列はできなかった。管理責任者が参列し、その際の様子を事務連絡にて全職員へ報告されたことでご家族や利用者の対する職務の役割、責任の重さなどの意識が高められた。

⑧ 医療的ケア対策推進委員会

ア 認定特定行為業務認定を受けていない介護職員に対して取得できる機会を得るよう努めたが、取得者なしであった。

イ 喀痰吸引・経管栄養に関する指導は継続しつつ、その他の医療的知識・技術に関しても、10月に医務室によるスキルチェックを行い、介護職員の知識・技術の向上や保持に努めることができた。

⑨ 感染症対策委員会

ア 感染症罹患ゼロを目指したが、利用者3人、職員7人がインフルエンザに感染した。その後、手洗い・うがいの実施、清掃・換気を行ない最小限のインフルエンザ罹患数でとどめた。

イ 施設内で感染症の学習会・研修会を開催し、職員一人ひとりの意識の向上、知識の習得を図った（感染症流行期にはインフルエンザ・ノロウイルスに係る学習会を開催した）。

ウ 職員に対し、手洗い方法や感染症の基礎知識についての感染症に関する学習会を年2回行った。

エ 外部の研修会に参加出来るよう努めたが出来なかった。

⑩ 介護技術向上委員会

ア 平成27年度に実施した「介護部スキルチェック」の項目と内容を精査し引き続き実施した。

イ 「介護部スキルチェック」後の指導方法、指導マニュアルや指導体制づくりを各処遇委員会と連携し、システム化を目指したが、実現には至らなかった。

ウ 利用者一人ひとりに合った褥瘡予防策を考え、ケアを検討、実践することで褥瘡予防を図った。『褥瘡予防策についての実施及び評価』を作成し、委員・看護師・管理栄養士で皮膚トラブルの現状を知り、予防対策の見直し・情報共有に努めた。

エ 外部の研修会に参加出来なかったが、移乗技術・褥瘡ケア等の情報収集に努めた。

⑪ 衛生委員会

ア 年2回健康診断実施（4月・11月）した。

年2回の健康診断結果より再受診・再検査を促し、健康意識の啓発や健康管理に積極的に活用する事ができた。またストレスチェックについては法令で定める対応を行なった。

イ 腰痛予防のためアンケートを行い現状分析すると共にコルセット使用などの腰痛予防策実施を促すことができた。

第4 短期入所生活介護事業所（資料編20）

- ① ショートステイユニットとして職員の体制、意識を整え「喜久の園を利用して良かった」と評価され、選ばれる施設を目指し、平均利用率86.8%であった。
- ② 誰もが正しいケアに入れるよう業務マニュアルを活用し、ユニット会議等で定期的にマニュアルの見直しも行った。
- ③ 空室情報を居宅介護支援事業者等へ積極的に発信し、利用率アップに繋げる事ができた。
- ④ ショート担当職員が不在の日でも申し送りを確実にを行い、外部とのやり取りができる体制を整えた。
- ⑤ 感染症を施設に持ち込まれないよう、事前の体調確認を徹底した事で感染症が流行する事を防げた。
- ⑥ 毎月のユニット会議を通して情報の共有を図る事ができた。
- ⑦ 朝礼では事故防止のためにも利用者のケアの注意点等を確実に申し送る事ができた。
- ⑧ 各職員が担当の利用者を持ち、その方のケアについて責任を持って担当した事でより良いケアをする事ができた。
- ⑨ 日々の行事やレクリエーションを充実し、利用者を楽しんで頂く事でリピーター利用者の増加に繋がった。

資料編

(平成28年度/平成29年3月31日現在)

特別養護老人ホーム喜久の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成29年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0	1	4	1	3	9
女性	0	3	15	14	8	40
合計	0	4	19	15	11	49
割合(%)	0.0%	8.2%	38.8%	30.6%	22.4%	100.0%

平均要介護度	3.67	(男性	3.67	女性	3.68)
平成27年度	3.74	(男性	3.92	女性	3.68)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成29年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合計
男性	0	0	0	0	2	3	3	1	9
女性	1	2	0	4	3	7	14	9	40
合計	1	2	0	4	5	10	17	10	49

(平成28年3月31日現在)

	合計
男性	13
女性	37
合計	50

3 利用(入居)者平均年齢

(平成29年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	89歳3か月	81歳10か月	98歳6か月
女性	88歳6か月	62歳9か月	102歳10か月
合計	88歳8か月		

(平成28年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	85歳5ヶ月	61歳8ヶ月	97歳6ヶ月
女性	88歳0ヶ月	61歳9ヶ月	103歳5ヶ月
合計	87歳4ヶ月	—	—

4 在所期間別利用(入居)数

(平成29年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	2	4	2	1	0	9
女性	10	12	7	5	6	40
合計	12	16	9	6	6	49

(平成28年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	5	6	1	1	0	13
女性	16	8	6	2	5	37
合計	21	14	7	3	5	50

5 食事介助状況者数

(平成29年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	6	12.2%
一部介助者	12	24.5%
介助なし	31	63.3%

(平成28年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	6	12.0%
一部介助者	6	12.0%
介助なし	38	76.0%

6 入浴介助状況者数

(平成29年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	21	42.9%
個 浴	28	57.1%

(平成28年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	18	36.0%
個 浴	32	64.0%

7 排泄介助状況者数

(平成29年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	8	16.3%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	39	79.6%
歩行、杖等でのトイレ使用者	2	4.1%

(平成28年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	4	8.0%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	33	66.0%
歩行、杖等でのトイレ使用者	13	26.0%

8 面会状況

(平成28年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成27年度
人 数	286	353	288	355	332	230	280	286	373	394	315	276	3,768	4,576
1日平均人数	9.5	11.4	9.6	11.5	10.7	7.7	9.0	9.5	12.0	12.7	11.3	8.9	10.3	12.5

9 帰省(外出)状況

(平成28年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成27年度
人 数	15	15	10	11	13	8	13	7	7	11	4	4	118	147
日 数	21	21	13	13	17	12	17	9	8	13	6	6	156	306

10 入居・退去状況

(平成28年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成27年度
入居者数	1	1	1	1	0	0	1	1	2	1	3	2	14	26
退去者数	0	2	0	1	0	1	0	2	2	1	3	2	14	25
月末在籍者数	50	49	50	50	50	49	50	49	49	49	49	49	593	589

(平成28年度)

	入 居			退 去			平成27年度			
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	入 居	退 去		
人 数	2	12	14	5	9	14	26	25		
入居前及び 退去時の状 況	居 宅		7	死 亡		11	居宅	8	死亡	22
	病 院		0	他施設・長期入院		3	病院	3	他施設 長期入院	3
	施設(老健等)		7	居 宅		0	施設	15	居宅	0

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成28年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成27年度
苦情受付件数	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4	10

2) 苦情の分類一覧

(平成28年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	4
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	0
合計	4

(平成27年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	10
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	0
合計	10

12 他医療機関への受診状況

(平成28年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成27年度
内科	0	7	3	2	1	1	5	4	3	4	6	4	40	40
精神科	1		1										2	2
脳外科	1	1				1							3	0
整形外科	3	2	4	6	10	5	3	3	2	3	4	3	48	43
外科	1							1	2	1	1	1	6	1
泌尿器科	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	1	2	24	23
眼科	1		1	1			1	1		1		1	7	9
皮膚科	2	5	2	3	5	8	7	5	11	2	4	4	58	32
循環器科														0
合計	11	17	13	14	18	18	18	16	20	13	16	15	189	150

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成28年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成27年度	
内科	9	泌尿器科	0	13	0
循環器科	0	整形外科	2	0	2
脳外科	1	口腔外科	0	0	0

2) 処置状況

(平成29年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	平成28年3月31日現在	
経口与薬	50	経管栄養	0	50	0
創傷処置	2	バルーンカテーテル挿入	2	2	2
軟膏塗布	5	浣腸、排便、軟膏貼付	適宜	12	適宜
点眼	5			5	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼

(平成28年度)

月	回数	月	回数	平成27年度	
4月	0(4)	10月	0(3)	4(12)	0(1)
5月	2(1)	11月	2(3)	6(10)	0(5)
6月	0(1)	12月	1(3)	3(7)	0(4)
7月	1(4)	1月	1(7)	2(3)	1(7)
8月	0(6)	2月	2(2)	1(3)	1(1)
9月	0(4)	3月	1(2)	2(2)	0(7)
合計		10(41)		20(62)	

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数

(平成28年度)

月	回数	月	回数	平成27年度	
4月	0(0)	10月	1(2)	1(1)	0(0)
5月	1(1)	11月	2(0)	2(0)	1(6)
6月	0(2)	12月	1(3)	3(0)	2(2)
7月	0(2)	1月	0(1)	2(4)	1(3)
8月	0(3)	2月	2(1)	2(3)	1(0)
9月	0(0)	3月	0(1)	1(0)	2(1)
合計		7(16)		18(20)	

14 所在状況

(平成29年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成28年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	45	14	14	47	25	23
掛川市	2			1	0	1
袋井市	0			0	0	1
豊岡市	1			1	0	0
静岡市	1			1	1	0
牧之原市	0			0	0	0
島田市	0			0	0	0
御前崎市	0			0	0	0
合計	49	14	14	50	26	25

15 入居申込み(待機者)状況

(平成29年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成28年3月31日現在
菊川市	76	102
掛川市	3	3
牧之原市	0	0
御前崎市	1	2
島田市	0	1
袋井市	0	1
磐田市	0	0
藤枝市	1	1
浜松市	1	1
静岡市	0	0
清水町	0	0
県外	0	2
合計	82	113

16 ボランティア(訪問)状況

(平成28年度)

月 日	団体名(代表者名)および個人名	内 容
毎月2回 (第2第4火)	ふれあい犬	犬とのふれあい
毎月第3火曜日	傾聴・お話しボランティア	傾聴・入居者とのふれあい
毎月第1火曜日	ハーモニー青葉	ハーモニカ演奏と入居者馴染みの歌の披露
毎月1回	ハーモニカ・オカリナ・ハンドベル	ハーモニカ等の演奏を通して音楽に触れる
毎月1回	民生児童委員 介護施設ボランティア	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月1回	菊川市赤十字奉仕団	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月1回	ちぎり絵 ボランティア	ちぎり絵 作品の展示、寄贈
隔月(年5回)	おんがくの広場	演奏と楽器のふれあい
4月11日	菊川市文化会館アエル 合唱講座	合唱鑑賞と歌を通して入居者との交流
4月16日	日本舞踊	日本舞踊の鑑賞と入居者との交流
7月2日	VITOR(ビトー)氏 演奏ボランティア	聖歌独唱の鑑賞と入居者との交流
7月23日	菊川市公認マスコット きくのん	納涼祭 入居者、家族、地域の方とのふれあい交流
7月23日	えぷろんの会	納涼祭 出店のお手伝い
10月16日	菊川市祭典(仲島地区)	踊り披露
12月8日	ROKU昭和歌謡ボランティア	昭和歌謡・唱歌のギター弾き語りと入居者との交流
1月19日		

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成28年度)

団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数	団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数
明るい社会づくり推進協議会菊川支部	タオル寄贈	1	1	六郷小学校 6年	納涼祭 お手伝い	1	1
大浜中学校 3年 福祉施設体験	補助業務 コミュニケーション	9	9	六郷小学校 5年		1	1
菊川東中学校 1年	歌声広場 コミュニケーション 清掃	1	1	加茂小学校 4年		1	1
河城小学校 4年		1	1				
菊川東中学校 3年	納涼祭 お手伝い	1	1				
菊川東中学校 2年		1	1				

平成28年度 合計 年間延日数 17日 年間実人数 17人

平成27年度 合計 年間延日数 64日 年間実人数 35人

18 事故調査状況

(平成28年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成27年度
怪我	転倒			1	2	2		2	1		3	2		13	7
	転落・滑落			1		1			1	1	2		1	7	13
	外傷	3	3	12	8	5	7	6	4	9	8	8	2	75	71
食物	誤嚥													0	2
	異食・誤飲													0	8
	経管栄養													0	1
薬	誤薬					1		1	1	1				4	7
	投薬忘れ			1	3	2			2	2			1	11	15
	内服薬	2	1	1		2	2	2		1	2	1		14	7
	配薬													0	0
ケア	爪切り									1		1		2	3
	ケア提供	1	1										2	4	4
	ショート忘れ物	1		1		1		3			1		1	8	3
物損	私物紛失							1						1	3
	物損			1	1	1	1	2				3	7	16	16
	利用者同士のトラブル													0	0
合計		7	5	18	14	15	10	17	9	15	16	15	14	155	160

19 実習状況

(平成28年度)

学校名等	実習名	延日数	実人数	平成27年度	
東京女子医科大学	基礎看護実習	0	0	16	8
東海福祉専門学校	希望実習			0	0
三幸福祉カレッジ	ヘルパー2級実習			0	0
聖隷クリストファー大学	社会福祉援助技術実習	0	0	23	1
小笠高校	インターンシップ	3	1	0	0
常葉大学	管理栄養士臨地実習	5	1	5	1
	インターンシップ			3	1
静岡福祉大学	介護福祉実習Ⅱ	40	2	80	2
静岡福祉大学	介護福祉実習Ⅲ	25	1		
同志社大学	介護等体験	5	1		
名古屋学芸大学	管理栄養士臨地実習	5	1		
合計		83	7	127	13

20 短期入居生活介護利用状況

(平成28年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成27年度
利用者人数	41	44	41	40	36	46	44	40	41	41	39	40	493	497
総利用者数	244	269	263	265	261	280	297	265	262	257	247	260	3170	3,093

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成27年度
1日平均	8.1	8.7	8.8	8.6	8.4	9.3	9.6	8.8	8.4	8.3	8.8	8.4	8.7	8.4
送迎回数	116	114	124	124	118	130	136	112	114	108	95	124	118	117